

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察技術情報について

令和 7 年度病害虫発生予察技術情報第 14 号を発表したので送付します。

令和 7 年度病害虫発生予察技術情報第 14 号

水稲（一期作）におけるスクミリングガイの防除対策について

水稲におけるスクミリングガイの被害は全国的に増加傾向にあり、昨年の一期作・二期作栽培では、西表島、石垣島の一部で本種の多発生と水稲への被害が確認されました。スクミリングガイは、無水の水田でも半年以上生存でき、湛水後に活動を再開して若苗を食害します。被害を防ぐためにはほ場準備から移植 3 週間後までの防除対策が重要となりますので、以下の対策を徹底しましょう。

1 生態

- (1) 本種は南米原産のリングガイ科の大型淡水巻貝で、1980 年代に台湾などから食用（養殖用）として導入されたものが野生化した。九州・沖縄、四国、本州の太平洋側など、温暖な地域で多く発生し、現在も分布域の拡大が続いている。水稲では移植後 2～3 週間までの若苗を食害し、多発すると欠株や生育障害をもたらす（図 1、2）。
- (2) 成貝は最大で殻高約 8 cm、殻色は黄褐色～黒色、螺層は 5 層右巻きで、殻口は大きく角質の蓋を備える（図 3）。周年活動するが 3 月頃から摂食や交尾が活発になり、夏季に盛んに繁殖する。
- (3) 摂食活動は水中で行われ、深水田で被害が多い。落水後は土中に潜って活動を停止し、湛水すると活動を再開する。乾燥条件下では口蓋を閉じて代謝を下げ、無水でも半年以上生存できる。
- (4) 母貝は夜間、水辺の植物や用水路等のコンクリート壁面に登り、直径 2～4 mm の鮮紅色の卵を数十～数百個の卵塊で産卵し、1 頭あたりの年間総産卵数は 2,400～8,600 個に及ぶ（図 4、5）。産卵は 3～4 日間隔で行われ、好適な環境では約 10 日でふ化し、2 ヶ月程度で成熟する。

2 防除対策及び注意すべき事項

- (1) 水深が深い場所は集中的に食害されるため、傾斜や凹凸がないよう、均平に代かきを行う。
- (2) 畦畔及び用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所を作らない。
- (3) 取水口に侵入防止網等（目合 9 mm 程度）を設置し、用排水路からの侵入を防ぐ（図 6）。
- (4) 貝及び卵塊は見つけ次第除去する。人体に有害なセンチウが寄生している場合があるので、捕殺する際はゴム手袋やトング等を使用し、素手で触らない。
- (5) 本田での食害が集中する移植後 2～3 週間は 1 cm 以下の浅水管理に努め、本種の活動を抑えるとともに、メタアルデヒド粒剤などの薬剤を施用する。
- (6) 収穫後はトラクターの速度を遅く、PTO 回転を速くして土壌を細かく砕くよう丁寧に耕耘し、成貝を破砕する。使用後の機械はよく洗浄して泥を落とし、他ほ場への貝の持ち込みを防ぐ。
- (7) 多発圃場では、収穫後に 1～4 日間湛水し、石灰窒素を全面散布した後、更に 3～4 日間湛水して貝を致死させる。荒起こし後に石灰窒素を全面散布し、同様に湛水してもよい。魚毒性が高いため、処理後の田面水は水路に流さず自然落水する。また窒素成分を含むため、次作の施肥量を調整する。



図1 食害による水田の欠株



図2 イネ株元に寄生する稚貝



図3 成貝



図4 卵塊



図5 畦畔雑草上の卵塊



図6 取水口の侵入防止網

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL : (本所) 098-886-3880、(宮古駐在) 0980-73-2634、(八重山駐在) 0980-82-4933

ホームページアドレス : <https://www.pref.okinawa.jp/shigoto/nogyo/1010700/index.html>

